すみよし

２０１２年　クリスマス号　第１８８号

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪　聖　句　≫

わたしの魂は主をあがめ

私の霊は救い主である神を喜びたたえます。

身分の低い、この主のはしためにも

目を留めてくださったからです。

今から後、いつの世のひとも

わたしを幸いな者と言うでしょう。

力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。

ルカ福音書１章４７～４９節
選：小さき花のテレジア　CT

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪飼い葉桶≫

赤波江 豊 神父

クリスマスおめでとうございます。今年の冬は例年になく寒い気がします。でも寒いからこそ温もりへの憧れが強くなる季節でもあります。私がイタリアで生活していた時、春から秋へかけてはそうでもなかったのですが、一番日本への思いが強くなったのが冬のこの時季でした。日本固有のあの温もり、暖かい風呂、こたつ、鍋料理などです。もちろんイタリアにも温水シャワー、暖房、暖かい料理はありますが、長年慣れ親しんだ日本固有の温もりは忘れられないもので、冬になれば家族は、友達はどうしているのだろうと郷愁を深めたものです。今でも学生や仕事などで家族を離れて暮らす人たちが、家族への思いや温もりを強めるのはこの時季かも知れません。私も司祭になる前、学生で下宿していた頃、ちょうど今の時季でしたが「帰ってこいよ」という歌が流行りました。特に寒い夜道を歩いているときなどよくこの歌が耳に入って家が恋しくなり、たまには家に帰ろうかなと思ったのを覚えています。

救い主は生まれた後、飼い葉桶に布にくるんで寝かされました。飼い葉桶は馬などが食べる藁などを入れた桶で、馬は時間が来ると藁などを食べるために飼い葉桶のまわりに集まってきます。親元を離れて暮らす若い青年に故郷の父親が「帰ってこいよ」と電話するように、クリスマスになると神様も私たちに飼い葉桶に「帰ってこいよ」と呼びかけているかのようです。飼い葉桶は私たちが本来立ち返るべき魂の故郷だからです。

よく子どもと一緒に嬉しそうに馬小屋の御像を見つめている大人がいます。クリスマスになると多くの大人が子ども心に帰ります。きっと飼い葉桶の幼子イエスから暖かい神の家に「帰ってこいよ」と呼びかけられているのでしょうね。

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪待降節黙想会≫

２０１２・１２・２（日）

待降節第１主日（１２月２日）、溝部　脩司教様をお迎えして「待降節黙想会」をご指導いただきました。
やさしい笑顔で私たちの緊張をほぐして下り、聖歌とお祈りで黙想会は始まりました。

♪キリストの平和が・ゆるしが・いやしが・恵みが私たちの心の隅々にまでゆきわたりますように♪

主よ、今日この黙想会を通してあなたが私に赦しを与えて下さる神様であること、私が深い罪を背負ってこの世界を生きていること、悲しみの中からあなたに叫ぶ自分であることを、何よりもあなたから赦しを求める私を発見させて下さい。
これらを全部含めてどうぞ私達を祝福してください。

第１講話　「ゆるしの秘跡について」

「**秘跡**」の「秘」は隠れている、見えないものや力。「跡」は見える印。見えるものを通して見えない神の力が働く。

「教会」も大きな秘跡です（第２バチカン公会議）。見える私達信徒がいて、見えない神の力がそこで働いてこの世界に新しい光が輝く。人間の思惑や力ではなく、私の弱さを通して神が働いて下さるのです。

１）自分の弱さを見つけ、認める。そこに神が来て下さる。

ルカ５章１～１１節は、イエスの言葉に従って漁に出たペトロのお話です
獲れた魚を持って帰ったペトロはイエスの前にひれ伏して「私は罪びとです」と言います。
ペトロはそれまで自分が罪びとだなどとは思ってもいなかった。イエスと出会って初めて自分の罪深さに気付くのですが、それこそが恵みの始まりなのです。
私達も教会で教えられて自分が罪深い人間であったことに気付かされます。これまでずっと自分はよき父親であり、よき社会人であると思っていたけれど、それでも日頃隣人や友人と自分を較べたり、妻を蔑んだりしていたこと、自分の心の奥底に淀んだドロドロしたものを持っていたことに気付きます。その気付きこそがイエスと出会ったことであり、そこに神の恵みが注がれる（赦しの秘跡）ルカ福音書のペトロの姿なのです。

２）罪とはなに？

公教要理の教えに背いたこと？　良心に反したこと？　今、自分を苦しめているものは何か、自分の心に沈殿しているしこりのようなものは何かと考え、探してみましょう。

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

ダイナミック・メモリー（心理的アプローチ）では集まった人々を年代別に分けて、あなたの心を占領しているものは何ですか？　何が心の奥底に残っているのですか？と探します。
それを見つけ、気付くことが赦しへの発端となるのです。嫉妬、傲慢、蔑みやお金への執着などを感じて、罪深いなと思う。その結果として何をしたかではなく、そのような罪深い心を持った私を赦して下さいと祈るのです。

３）罪の大きさ

　罪の大きさはその結果と比例し、償いもそれに比例します。
家庭内暴力や援交など、自分のために家族や友人を傷つけ、その人生を台無しにしたことに対する償いは一生をかけても償われるべきものです。
　アウグスチヌスは「告白論」で、自分の過去の過ちを認め、生涯をその償いにあてるとし
ています。そこに（罪のあるところ）神の恵みがあるのです。与えた損害の大きさによって自分の罪深さを悟ります。自分の犯した罪にたいしての償いはしなくてはならない。
　主日のミサにあずかることは、キリストの十字架のいけにえを共にささげることであり、自分がどうしても出来ないことを神様がして下さる、その救いの業にあずかることなのです。

４）自分の罪深さをさらけ出す

　自分の罪を全部話したら、赦しがついてきて新しい命が始まります。
司祭は自由にいつ、どこでも赦しを与えることができるのです。例え罪のある司祭であっても、この罪びとを通して神が働いて下さるからです。普通に話をして、赦しを頂きたいと言えばよいのです。
人という目に見えるものを通して神が働いて下さるから、赦しの秘跡の基本は神様であるという信仰が大切です。
　教会は少なくとも年に一度、待降節、被昇天や四旬節に赦しの秘跡を受けるように勧めています。出来れば少し時間をとって黙想し、司祭と話をして赦しの秘跡を受けましょう。

第２講話「聖体の秘跡」

目に見える印（パンと葡萄酒）と目に見えない神の力。ミサの中で唱えられる「これは私の体であり、多くの人のために流された私の血である」という言葉は、司祭の按手によって、パンはキリストの肉となり、葡萄酒はキリストの血となるのです。
あなた達はそれを信じますか？
パンは人を養います。カトリックの礼拝は食卓（祭壇）を囲んでキリストの体（パン）を食べることによって私の中にキリストが入って血となり肉となり、そこに交わりや絆が生まれるのです。同じことが隣の人にも起こります。それがミサにあずかる意義です。
アガペ（愛）とは食事を共にすること。教会はキリストの体と血を頂き、キリストの体を信じる共同体なのです。

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

キリストを中心に食卓を囲む姿が教会の姿です。ペトロの家は最初の教会であり、その後エルサレムやアンティオキアの教会で使われていた言葉が伝承されて、パウロの「コリントの信徒への手紙」となり、その後マルコ、ルカ、ヨハネ（黙示録）と受け継がれて聖書に書かれています。
ミサはカトリック教会の生命の源であり、ミサにあずかるという事は私達もパンと葡萄酒をささげるのですから、自分のミサの意向をはっきりと持つことが大切です。自分では何もできないけれど神様がして下さる。
教会は小さな人々の集まりでも大きな事が出来るのは、私達ではなく神様がして下さるという深い信仰があるからです。

【献樹式】

黙想会とミサのあと、日本二十六聖人列聖１５０年記念の今年、聖パウロ三木に捧げられた住吉教会に殉教地長崎ゆかりの椿「玉之浦」が溝部司教様の手によって献樹されました。

正面玄関左手に聖パウロ三木のご像。右手に椿が植えられました

《献辞》
椿のように雄々しく生き
椿のように全部を捧げて果てる
　このような潔い生き方を
　私に課してください。
ここを通るたびに自分の
生き方を得るように
　主のために自らを捧げる
　シンボルとしてこの椿を
　植えます

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《　目　次　》

☆ 聖　句　TT …… 2

☆ 巻頭言　赤波江 豊神父 …… 3

☆ 待降節黙想会・献樹式　溝 部　脩 司 教 …… 4

☆ 目　次 …… 7

☆ 侍者錬成会　KH …… 8

☆ 信仰年にあたって　AT …… 9

☆ 恵老（敬老）のお祝い ……11

☆ お恵みの働きかけ　YS ……13

☆ 心のどこかに神様が　TT ……14

☆ セニョール・デ・ロス・ミラグロス ……15

☆ 祈念祭、コーナン神父様巡礼 ……16

☆ 東日本大震災復興支援バザー ……17

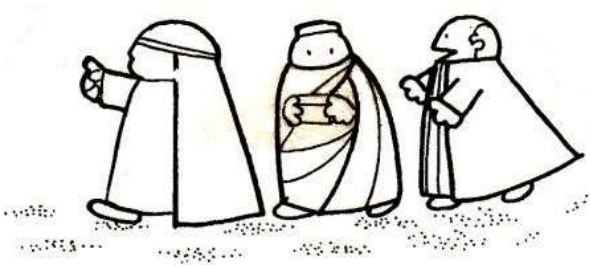
☆ 七五三のお祝い ……19

☆ 教会学校クリスマス会 ……21

☆ 図書コーナーから　HK ……23

☆ 教会日誌・信徒動静（８月１６日～１２月２５日） ……(23)

☆ ミサ・講座案内・後記 ……24



題　字：　山 際　純 子
表紙絵：　前田 季彩恵

＊＊＊＊＊

≪「すみよし」電子版は教会ＨＰにフルカラーで掲載されています。
どうぞご覧下さい。≫

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪２０１２年侍者錬成会≫

KH

2012 年 8 月 17～19 日の三日間、神戸の愛徳学園にて侍者錬成会が開催されました。参加者は子供が８０人ほど、リーダーも合わせれば１２０人という大規模なイベントとなりました。

今年は「となりのイエスさま」というテーマのもと、隣人愛を子供たちに学んでもらおうと、２月の半ばから半年間会議をして準備をしてきました。しかし、隣人愛と言っても言葉だけでは伝えるのは難しいので今年は学習の時間だけではなく、全てのプログラムにも工夫をしてもらいました。

１日目の侍者錬がスタートし子供の緊張をほぐすために行ったレクリエーションでは、ゲームで成功したら「ありがとう」「いえいえ、いいんですよ」と互いに言い合うルールを取り入れました。このやり取りは三日間を通して子供たちがあらゆる状況でも使ってくれるほど人気のフレーズとなりました。２日目の午前中には愛徳学園の運動場にて運動会が開かれ、子供達もリーダーも大いに盛り上がり、夜には光るブレスレットを使い全員で並びハートの形と「あい」という文字を作るなど、皆が一致団結するプログラムをしました。３日目の最後のミサでは善きサマリア人の話を紙芝居で行い、子供たちにも分かりやすいようにしました。

そして、侍者錬成会三日間を通して行われる学習では１日目は隣人愛の話の劇で行い、そのあと学年毎に分かち合いをしてもらいました。２日目には学校の各場所に様々な体験ができるスポットを作り、そこで子供たち自身で経験をし、そこから何か感じ取って貰うという事をしました。例えば、車椅子体験では段差や障害物がいかに危険か、そしてそのように困っている人がいればどのように行動すればよいかなど考えてもらいました。そして、三日目には子供たちが三日間で感じた事を丸い紙に書いて、大きな紙に貼ってぶどうの房を作りました。

このように三日間全体を通して子供たちに隣人愛の大切さが伝わったように思い、皆が家に帰ってからも様々な場所で心に多くの愛の花を咲かせてくれるでしょう。またこの大きなイベントの代表を半年間務めたことで私自身も色んな事を学び、多くの人に支えられたことに感謝をし、大きく成長できたと実感しました。そして、ここで得た経験を住吉教会でも活かし、次の世代の成長へと繋げることができるように頑張りたいと思います。

2012年度大阪教区侍者錬成会「となりのイエスさま」平成24年8月17～19日　於愛徳学園

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《信仰年にあたって》

アントニオ・ジェラルド　AT

教皇ベネディクト十六世は、第二バチカン公会議開幕 50 周年、また、『カトリック教会のカテキズム』発布 20 周年の 2012 年 10 月 11 日から 2013 年 11 月 24 日の王であるキリストの祭日までの期間を「信仰年」とすることを定められました。

教皇様は「信仰年」に教会が取り組むべき目標として、「この年がすべての信徒に、新たな確信と信頼、希望のもとに信仰を完全に『宣言』し、典礼を通して信仰を熱心に『祝い』、同時にそれを生活の中で『証し』するよう促すこと」を掲げられました。

大阪教区では 10 月 14 日（日）に池長大司教司式のもと「信仰年開始ミサ」が大阪カテドラル聖マリア大聖堂で行われました。このミサの中で教区内の 8 地区に「信仰年ローソク」（復活ローソクと同じくらいの大きさ）が手渡され、期間中それぞれの地区内小教区を巡回し、私たちが信仰の光に照らされて歩むシンボルとして、小教区でのミサの時などに灯されることになりました。（住吉教会では 11/21～12/2）

2012 年は日本二十六聖人列聖から 150 年にあたり、また、2015 年は高山右近帰天 400 年、長崎でのキリシタン発見 150 年にあたります。住吉教会は日本二十六聖人の一人聖パウロ三木を守護の聖人に戴いています。このような事を踏まえて、2012 年から 2015 年までの 4 年間住吉教会では「殉教者の霊性を生きる。」を基本テーマと定め、1 月 29 日には赤波江神父様から二十六聖人殉教についてお話を頂き、2 月 5 日には有志一同による殉教劇、3 月 25 日にはルカ・ホルスティンク神父様（フランシスコ会）指導の四旬節黙想会、6 月 9 日にはバスによる京都巡礼を行い、12 月 2 日には溝部司教様をお迎えして待降節黙想会を行ってきました。また、ミサの中の共同祈願の時に“日本二十六聖人殉教者への祈り”をみんなで一緒に唱えています。私たちは信仰年に入る前から既に以上のようにいろいろして来ましたが、住吉教会としては「信仰年」の趣旨に合わせてこの流れを続けていきたいと思います。ご家庭で、個人でそれぞれのレベルで神を信じ、神に祈り、愛の業に励み、誘惑に負けない信仰を育てていくことが大事です。

人はこの世に生きている間、さまざまな体験をします。「その時は何も感じなかった事が、あとになってあの時は神様が助けて下さったのだ。」と思いあたるような体験もあると思います。

阪神淡路大震災の時に私たちが住んでいた家が全壊しました。その時はなぜこのような目に遭わなければならないのかと思いましたが、家族四人カスリ傷ひとつなく無事だったのは本当に奇跡としか言いようがなく、神様が私たちを守って下さっていたのだと今では信じています。

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

「絶望の中にあってこそ神に祈ることによって希望が湧きあがってくる。」と赤波江神父様がよくお説教の中で話されていますが、まさに私のこの体験がそのことを実証しています。このように今までの体験を振り返ることによって、神様がいつも私たちとともに居てくださり、救いの手を差し伸べてくださることを思い起こすことが、私たちの信仰を深めることになるでしょう。

神様を信じることによって神への賛美と感謝の気持ちが祈りという形であらわされます。感謝の祈りのあといろいろな願い事を祈りますが、どうしても自分のためになりがちです。しかし、それが家族のため、親族のため、知人のためと広がっていくことによって他人に対する思いやりの心が育まれ、普段の生活の中でキリスト者に求められている “隣人を支えて生きること” （隣人愛）を実践していくことが出来るのではないかと思います。

信仰年のろうそくを持つ T さん

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪恵老（敬老）のお祝い≫

２０１２・９・１６（日）

「幾つかの病気持ちで不安な日々もあります。」と言われる方も、「元気印の毎日でまだまだと思っていたのに祝っていただく方になった。」と笑われる方も、ミサの中で祝福の水を頂き、今年も参加できた事を神様に感謝しながら、皆一緒に恵老の祈りを捧げました。多くの方々と共に今日の日を祝えるのは本当にうれしい事。ミサ後、教会学校の子供達の心のこもった可愛いカードを頂きながら聖堂を出ると、いつものパウロ三木ホールは小劇場に早変わり。

東灘近辺で人形劇を中心にボランティア活動をしておられる、『えほんのたね!』グループの皆様による人形劇や腹話術、大きな絵本の朗読等があり、童心に返って楽しい一時を過ごしました。パーテイーの準備が整えられた会場では、子供達の「言葉あてゲーム」に、はてなと答えをさぐり、Ｋさんの明るい歌声に誘われての手指体操。間違えながら笑いながらの動きは心と頭の良い刺激になりました。毎年お楽しみの「住吉の秘宝Ｍさん」の今年の出し物は、ご自身のリハビリを兼ねたと言われるお琴。時々？の音色にリズム感よく合わせての懐かしい歌の数々。「ここは輪唱で」と高尚な注文もあり。
月に一度の書籍販売に来られていたＳｒ．Ａによる飛び入りの出し物は「母からの伝授」との有難い数え歌や「習いたてです」との詩吟。姿勢正しく毎週現役の献金係を務めて下さる「住吉の至宝Ｋさん」は「出席者最高齢の９８歳です。」との神父様のご紹介。みんなでお祝いの拍手。和やかに楽しいひと時を共に過ごした皆様の満面の笑顔はマリア様への何よりのプレゼントでした。

Today is the first day of the rest of your life.

今日という日はこれからの人生の始まりの日

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

「えほんのたね!」のみなさん

お恵みにピース！

かわいいカードありがとう！

いつまでもお元気で

美しいお琴の音

シスターの 18 番？

リズムに乗って元気体操

できる言葉はな～んだ？

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪お恵みの働きかけ≫

YS

内科医院を閉鎖して、早５年になります。
開業当初は満４０才直前で体力に自信がありましたので、地域の方々のお役にたつように、すすんで往診を引き受けて居りました。それでも深夜の往診は往々にして辛い場合もありました。寒い真夜中に電話が鳴り、「なんでこんな寒い真夜中に・・・」と文句のひとつも出たものです。それでもそんな気持ちとうらはらに、身体が勝手に動き出して、背広に着替え、往診カバンの中身をととのえ、自家用車にのりこんで患家に向かって走り出す頃には、全く普通の医師の使命感をとりもどして居りました。何回かそのような体験を踏む中に、身体が自然に動き出して、使命感を生み出す原動力となる事が、主のお恵みのように思われてきました。又、こんな事もありました。ある御高齢の重病患者さんの往診を依頼されたのですが、御本人の意思で「入院は絶対にしたくない。」との事で、私自身も医師会の公的な仕事もあって多忙を極めた時期でしたので、家族の方との間にトラブルめいたやりとりがあり、疎外感に発展しそうになっていました。そんなある日、またしても強い往診依頼があり、抵抗感を催しましたが、まさにそのとき私の背中をそっと押しながら、「行ってあげなさい」と言う声が心の奥底から聞こえてきて、それに従いました。御本人はその後逝去されましたが、そのお葬式の際、まことに丁重なご挨拶を賜り感動しました。あのとき私の背中を押して下さった感覚こそ、神のお恵みであったと今でも反省して居ります。

このように身体の動きや感覚を通して、お恵みをいただくことがあるのでしょうか。私の実感であります。

一呼吸

どのような苦しみや悲しみを
吸うても
はく息は感謝と希望で
ありますように
一呼吸もみな
天の父さまのお恵みですから

河野進「おにぎりの詩」から

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪心のどこかに神様が≫

マリア・フランシスカ　TT

Ｍ・・８９歳と伺って驚きました。しっかり生きていらっしゃいますね。
Ｔ・・大正１３年大阪生まれです。元気で教会に来られるのは、幸せです。
Ｍ・・４人きょうだいのご長女だそうですが？
Ｔ・・下に弟が３人います。父はサラリーマンでした。母方の祖父が新教の信者だったので私は４才頃から新教の教会へ行っていました。東京の四谷に住んでいた頃、近くにカトリックの雙葉女学園があり憧れでした。又近所に東京の聖心を卒業された方がおられ、毎週３人のお子さんを連れて朝早く日曜のミサに行かれるのを見ており、何処の教会へ行かれるのかと伺うと吉祥寺教会と言われ、私も幼い頃教会に行っていた話をして是非連れて行ってほしいとお願いしました。さっそく次の週から連れて行って下さいました。これがカトリックの教会へ行く事になったきっかけです。やがて修道院へ入りたいと思うようになりました。ところが、教会へ行くのは許してくれた両親からは、修道院はおろか洗礼を受ける事も反対されました。
Ｍ・・それにはわけがおありでしたか？
Ｔ・・当時（終戦直後）信者になると、先祖のお墓放棄、位牌も焼き捨てるという噂があり、父親は「先祖を粗末にする宗教はだめ！」となったのです。が、先の方が代母になって下さり２３才の時、東京吉祥寺教会で密かに受洗しました。
Ｍ・・やはりお恵みがあったのですね？
Ｔ・・洋裁全盛時代でした。女学校を出るとすぐ東京ドレスメーカー女学院に入学、軍服を縫った事もあります。それから今日まで洋裁一筋、今も現役で頑張っています。
Ｍ・・だから若々しくお元気なのですね。
Ｔ・・ドレメ時代には子爵の御嬢さんも在学していて、私達とは暮らしぶりが随分違うと感じていたものです。
Ｍ・・戦争までは封建制度があり、華族五等爵がありましたね。公、侯、伯、子、男爵です。
Ｔ・・現在の日本は自由で平和で・・・幸せに暮らしています。これから天国への旅立ちを迎える準備です。早く神様にお会いしたいです。
Ｍ・・旅立ちは急がなくても必ず行かれますからご安心下さい（笑い）
本日はありがとうございました。

インタビュアー　編集部　AM

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《セニョール・デ・ロス・ミラグロス》

２０１２・１０・２１（日）

秋晴れのよいお天気に恵まれ、あふれるような神様の祝福をいただき今年も各地から来られたたくさんの方々とミラグロスを祝いました。赤波江神父様、山本助祭と共にミケランジェロ神父様（梅田サクラ・ファミリア教会)、フリオ神父様（大阪今市教会）がスペイン語圏の方々の為にバイリンガルミサを捧げて下さいました。ミサ後、もう私たちの耳にもなじんだミラグロスの歌を歌いながら、遠方より参加されたペルー大使も一ご緒に教会・幼稚園の敷地を回る聖行列。ホールではペルー料理のランチ、民族舞踊や歌もあり。ペルーの方達と共に住吉の信徒もお祝いし楽しみました。
はやいもので住吉教会でお祝いをするようになってもう２１年目になります。

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《祈　念　祭》　２０１２・１１・４（日）

１１月は諸聖人をお祝いする月、亡くなった方を祈念する月でもあります。
住吉教会ではこの日ご遺族と共にミサが捧げられました。ミサ後祈念堂の前でお焼香、そしてホールで故人を偲びながら和やかな一時を過ごしました。

神父様のお話の中から
「亡くなった方を思うと同時に私達に命を与えられた神様がいつも守って下さっていることに感謝して生きましょう。

≪コーナン神父様ご訪問≫　２０１２・１１・１１（日）

バザーの片づけも終わり三々五々帰途についた夕刻、以前住吉教会で私達をご指導下さったコーナン神父様がご訪問下さいました。赤波江神父様と居合わせた数人の信徒、中高生と共に聖堂で聖歌４０８番を歌い感謝を捧げ、祝福をして下さいました。
「ちょうど５０年前の今日（１９６２年１１月１１日）フランスから日本に来て、初めて赴任したのが神戸の住吉教会でした。この教会で新しく生まれ変わったので今日は巡礼にまいりました。」と言われました。

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

東日本大震災復興支援バザー

２０１２・１１・１１（日）

朝からあいにくの小雨の中、神父様の「雨の日には雨の日のお恵みがあります。」のお言葉の下、ミサ後、各コーナーが心を込めて準備したバザーが開かれました。外部からもたくさんのお客様を迎え賑やかで楽しいバザーになにました。今年の収益金はカトリック大阪教会管区の大船渡プロジェクトに送金されました。雑貨コーナー、今年初めて参加のインドの美しい物品コーナー、スペイン語圏の方のコーナーは幼稚園の教室をお借りして。リサイクルは２階の和室に移り、広々としたお部屋でゆっくりと品選びが出来たと好評。数々の心の籠った食べ物はどれもおいしく全て完売。チケット販売、焼き鳥コーナー、植木市は小雨の中で終始頑張って下さいました。子供達のビンゴゲームや喫茶コーナーはホールで。その他 etc・・・会場作りから焼き鳥コーナー他での活躍、最後の片づけまで協力してくれた青年、中高生や子供達。又一つの行事を通して住吉教会の和がほっこりとひろがりました。感謝！！！

住吉名物
焼き鳥コーナー
今昔青年大活躍

今年初参加の
インドの雑貨

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

いい物
ある？

名 MC による
ビンゴゲーム！！

至福の時

神父様、タイカレー談義

おぜんざい

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪長女の七五三 祝福の恵みを受けて≫

2012.11.18

ついこの間三つのお祝いを頂いたばかりと思っていましたのにふと気付くと数え年で七歳？！と慌てて申し込みをお願い致しました。お蔭様で無事、神様の前で七五三の祝福を頂き、ここまで大きくなったと感慨深い節目を迎える事ができました。ご準備等 大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

お説教では赤波江神父さまが待降節を迎えるにあたって「待つ」事の重要さを説いてらっしゃいました。出産を待つ月日を思い起こしたり、６年前の春、幼稚園舎での聖堂で受けた洗礼のお恵みの日のことなどを思い出しつつ、これからの育児もまた「待つ」忍耐、行、であると心に刻み、ごミサに与りました。

赤ちゃんだった A はぐんと背も高くなりました。晴れ着に初めて紅をさし、緊張の面持ちで、こちらははらはらしながら、どうかいつまでもこの光景を忘れないで欲しい、と願いました。自分の事を幼少時から知り、成長を見守って下さる身内以外の沢山の方々がこうしてお祝いしてくださる喜びは、後に本当に貴重な財産になっていくものと私自身、痛感しているからです。小さかった私が頼りなくも親となり、娘達と共に歩む道の支えは、住吉での繋がりです。

今はちいさな蕾の子供たちが、いつか花開き「置かれたところで咲く」力を付けていける様、家族一同お導き頂きたいと思います。宜しくお願い致します。

マリア・クララ・シャンタル AS

はやいもので R も３歳を迎え、こうして七五三の祝福をしていただきました。神父様のお話を聞き、皆様の前で名前を言う姿を大きくなったなあと、とても嬉しく思いました。

神様に見守られ、そして皆様に育てていただき、明るく優しい女の子に成長してほしいと願っております。

たくさんの温かいお祝いをありがとうございました。

NM

七五三おめでとうございます

AS ちゃん	７歳
RM ちゃん	３歳

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

真剣なまなざしで

お兄ちゃんも妹もいっしょ

母の祈り

お年はいくつ？

ありがとうございます

大きくなったら何になる？

みんなに囲まれて

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

☆教会学校クリスマス会☆

１２月１５日（土)、２４名の子供たち参加のもと、ささやかなクリスマス会をおこないました。
例年、子供たちがそれぞれの役を受け持って聖劇をしてきましたが、今年は少し趣向を変えました。
*「くりすます」という絵本の朗読をメインとし、二手に分かれてかけあいながら朗読し、クリスマスの歌を歌いました。
朗読が進む中、マリアとヨゼフ、博士などの衣装をまとった子供たちが印象的に登場しました。また、スクリーンを使い、絵本に描かれた絵をそのまま映し出しました。とても静かで素朴な優しい絵です。
練習日程がたった二日！という少なさの中、かけあいのタイミングを練習したり、歌詞を覚えたり、衣装の準備をしました。
喜んで「天使になりたい！」という低学年の子供たちもいれば、高学年は、思春期の微妙な年頃でもあり、なかなかむずかしいものがありました。
それでも、さすがベテランリーダーの指導のおかげで、本番には不思議な力が降りてきて、心温まるクリスマス会となりました。
子供たちが一生懸命歌う姿は本当にかわいいものです。と同時に、わが子を見つめるご両親のお顔を見てみると、何ともほほえましく、深い愛情を感じました。２０００年前のその日、マリアとヨゼフもきっと同じ思いでイエス様を見つめておられたのでしょう。
子供たちにとって、クリスマスは一年のなかでも特別に楽しい日です。大きくなってから、教会学校のクリスマス会もその楽しい一コマとして思い出してくれることを願いつつ・・・
Merry Christmas!!

一生懸命のリハーサル

*参照　「くりすます」
作：佐久間彪（司祭）
絵：かすや昌宏
出版社：至光社
発行日：1973 年

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

教会学校・卒業生も
応援に駆け付けてくれました。

ケーキおいし～い ♡

名演技？

立派なお髭
の博士たち

Merry Christmas!

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪図書コーナーの本のご紹介≫

『心を癒す言葉の花束』　　アルフォンス・デーケン著　　集英社新書

著者は「死生学」の学者であり、「生と死を考えるセミナー」を始められた方です。私は、こうしたセミナーは、実際に愛する人を突然失った人向けのものなのかと思っていましたが、著者は、苦しい体験をする前に心の危機について学んでおけば、より早く立ち直ることが出来る、中学や高校でも、「悲嘆教育（グリーフエデュケーション）」を行い、心の準備を学習するべきだと言っており、新たな扉を開ける気持ちで読みました。

「悲嘆のプロセス」「死へのプロセス」など、幼い時に妹や親友を失い、アメリカ同時多発テロや、阪神、東北・東日本の大震災で、多くの遺族と接してきた著者だからこそ言える、人間の心の軌跡のパターンが、わかりやすく記載されています。

固い説明になってしまいましたが、実際には、聖書、賢人達の言葉の数々に、今を生きる勇気をもらえる本です。

ドイツには「ユーモアには「にもかかわらず」笑うことである。」ということわざがあるそうです。無実の罪で処刑される直前にトマス・モアの発した言葉には思わず吹き出しました。人間の限界を超えた神のいる永遠を確信してこそ究極のユーモアは生まれるのでしょう。

『寅さんとイエス』　米田彰男　　筑摩選書

私は『男はつらいよ』を、中学一年生の学校行事で初めて観ました。あまりの面白さに、帰宅して、母に内容の一部始終を話したことを覚えています。読後、あの日の私と、聖書の中でイエスに出会い、その喜びを周囲に伝える人々が重なる思いがしました。

寅さんという架空の人物を考証すると、実在の人物であるイエス様の生きた姿が浮かび上がってくるという愉快な、しかし、聖書研究で緻密に裏打ちされた労作です。

福音書の成り立ち、時代背景や状況からみたイエスの言葉の分析といった、深い考察の合間合間に、寅さんの人情話にホロリとさせられる、まことに忙し…、いや、一粒で二度美味しい本です。

著者の米田神父は、もっと想像力を豊かにイエスの言葉を味わえば、そこにあるユーモアに気づけば、もっと聖書は面白くなる。神もまたユーモアの塊であると力説します。

明日のことを思い悩まず、弱い人に寄り添い、時を忘れる程楽しく食事をする。一緒にいるだけでホッとして生きる希望が湧きあがる。真面目で勤勉な日本人は、今も昔も、そんな人に憧れて、渇望しているのですね。

「ねえ、聞いて！今日、私は車寅次郎（イエス）という、魅力的な人に出会ったよ。」

HK

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪後記≫

クリスマス　おめでとうございます。
主が私たちの元へ来て下さったよろこびを、今年も又感謝と共に迎えます。
昨今の世相を見るにつけ心痛むことが多いのですが、頂いた信仰によって希望を見出すことができますように。そして苦しんでいる人々の傍らに主が　いつも寄り添っていてくださいますように。(H)

ひとりの幼子の誕生が世界中でこれほど祝われるのはイエス・キリストをおいて外にない。イエスのこの世での３３年間の働きの実りは２０００年余を経た今、世界で１１億９６００万人（内日本人約４３万人）のカトリック信徒が、今年１０月から来年１１月までの１年間を「信仰年」として、「新たな確信と信頼、希望のもとに」祈りをこめた日々を過ごす。
災害や紛争のない平和のうちに救い主イエスの誕生日を迎えたいと切に願う。(Y)

「教 会 案 内」

ミ サ	主日ミサ　日曜日	9:30
	第1・第 3 土曜日(スペイン語)	19:00
	週日ミサ　月・水・土曜日	7:00
	火・金曜日	9:30
	木曜日(聖体礼拝	17:30
	木曜日	18:30
評 議 会	第 3 日曜日	11:00

野宿者支援炊出し　第1土曜日9:30　住吉教会集合

信 仰 講 座

入門講座（赤波江神父）	第 1・第 3 日曜	11:00
聖書の集い(赤波江神父)	金曜日	10:30・14:00
信仰の分かち合い(信徒)	第 2・第4日曜日	11:00

教 会 学 校　第1・第3土曜日　14:00～16:00

ミサの後のお話　対象:子供　日曜ミサの後少しの時間

「すみよし」　第 188 号

発 行 日:　2012.12.24
発行責任者:　赤波江　豊神父
編集・印刷・発行:　広報チーム
発行所:　神戸市東灘区住吉宮町
2－18－23
カトリック住吉教会
TEL:　078-851-2756
FAX:　078-842-3380
http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp

目次

Copyright © 2012 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.